

令和3年度

自己評価表

鳥取県立鳥取聾学校ひまわ分校

中長期目標 (学校ビジョン)	聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。
-------------------	---



(めざす子ども像)
【知】あそび・学ぶ・学び合う子
【徳】やさしく・かわる・つながる子
【体】元気でやりぬく子

今年度の重点目標	- 子どもが主役となる保育・授業づくりと確かな学力の定着 - 友だちやまわりの人に進んでかわり、仲間としてつながろうとする態度の育成 - 心と体を鍛え、健康増進・体力向上に努める態度の育成 - 自立と社会参加をめざしたキャリア教育 - 子どもと向き合う時間を充実するための業務改善
----------	--

評価基準	A：具体方策により期待する具体目標レベルに十分達している。⇒問題なし B：具体方策により期待する具体目標レベルにほぼ達している。⇒特に問題なし C：具体方策による期待する目標レベルには達していない。⇒経過を分析し、改善方策を検討 D：具体方策が不十分で期待する目標レベルには達していない。⇒改善方策が必要
------	--

評価項目	評価の 具体項目	目標（年度末の目指す姿）	中間評価	
			経過・達成状況	改善方策
1 確かな学力の定着	子どもが主役となる保育・授業づくりと	- 自分の気持ちや体験したこと、身の周りの出来事などを伝えるためのことばを獲得し、伝え合うとしている。 - 絵本を読む楽しさや想像する楽しさを感じ、想像したことを伝え合う喜びを味わいながら、絵本の世界を工夫して表現している。	- 様々な場面で、自分の気持ちや体験したことを伝えようとする様子が見られる。その反面、獲得していることばが少なく、ことばの拡がりや定着には課題が残る。 - 絵本の時間が毎日あり、有意義な時間になっている。ただ、異年齢集団ということで絵本の内容によっては集中できないこともあり、絵本の選定等に工夫が必要である。	・集団や個別でことばでのやりとりが深められるよう、教員同士でそれぞれのねらいを共有して進める。また、体験活動の時は子ども達と想いを共有しながら意図的な声かけ、復唱を促すなど、印象に残る体験を多く積み工夫する。 ・絵本の時間にグループ分けを行い、実態に応じた絵本を図書館司書と連携しながら選定する。より絵本の世界に親しむように絵本の内容のやりとりを深める。
	〇適切な目標設定による保護・表現力の向上	・児童が主役となる授業づくりを進め、個々に学習を深めている。 ・児童がかわり合いの中で、自分の意見や思いを自信をもって伝えようとしている。	・様々な教科・領域で出てきたことばを断片的に指導し、電子黒板の活用、学びの足跡としての教室掲示、繰り返し学習等で主体的に学習している場面が増えている。 ・教師の支援を受けて発表する内容を整理することで、自信をもって発表したり、活動したりするなど積極的な様子が見られるようになってきている。	・児童が主役となる授業づくりを進め、さらに、実態や課題について教員同士の共通理解や連携を密に取り、視覚的支援を行い、計画的に実施する。 ・子ども同士のやりとりと視覚的支援を意図的に設定したり、適切な伝え方を繰り返し指導したりする。 ・オンラインによる交流や学習の機会を積極的に取り入れる。
	〇コミュニケーション力	・幼児・児童のそれぞれの実態に応じてことばの獲得と拡充が図られ、「伝える」を「考える」・「見つめる」ことによる自己表現ができていく。 ・全職員が研修や実践を通して聴覚障がい教育の専門性と指導技術を高め、聾学校における自立活動やことば、コミュニケーション、教科指導等についての理解が深まっている。	・教材の工夫、言語環境の整備、意図的な発問等により、幼児児童が自分の気持ちや考えを説明する姿が学習場面や生活場面において見られるようになってきている。 ・教職員は、参観ウィーク、鳥登スタンダードのチェック、研修や研究授業等を通して、専門性や指導力を高め、日々の実践に活かそうとしている。 ・幼稚園から小学部まで一貫して系統づけした指導に活かせるよう、自立活動指導プログラムの見直し、改善を検討中である。	・学内、学部間での情報共有、情報交換を密に行い、幼児児童に対して一貫した教育にあたるようにする。 ・幼小で系統的に自立活動の指導ができるよう、自立活動指導プログラムの見直し、改善を行い、全体に周知して活用できるようにする。 ・一人一研究授業、全体授業研究会等で学んだことをもとに、ことばの発達についての理解を深め、授業改善につなげていく。
2 友だちやまわりの人にかかわり、仲間としてつながろうとする態度の育成	〇コミュニケーション力	・色々な友達と遊び、イメージを共有したり気持ちの折り合いをつけたらして、かわるごとの楽しさを味わっている。 ・獲得語彙が増え、手話や音声等で自分の経験や気持ちを積極的に伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりして伝え合うことを楽しんでいる。	・コロナ禍のこともあり、交流保育の確保が十分でなかったが、積極的ににかかわろうとする場面も見られる。 ・集団での活動では、自分の気持ちに折り合いをつけて、友達に声かけする様子が見られるなど、人とかかわる楽しさを感じつつある。 ・獲得語彙が少しずつ増え、手話や音声等で自分の経験や気持ちを積極的に伝えるようになってきた。ただ、集団の活動でお互いを意識しての行動までは至らなかったため、相手への意識を高める必要がある。	・交流保育については、交流の方法やかかわり方を工夫しながら引き続き行っていく。 ・小学部の子ども達とかかわる時間を確保し、様々な人とかかわる機会を設定していく。また、ルール性のある遊びなど集団でできる遊びを定期的に設けていく。 ・獲得語彙を増やすコミュニケーションを積み重ねていくとともに、お互いを意識できるような活動内容を考えて、感想発表等の機会を設定したりする。
	〇コミュニケーション力	・友だちや交流校児童等に進んでかわろうとしている。 ・自分や友だちのよいところに気づいている。	・週に1回「なかよしタイム」を設定し、友達や学部内外の教員と関わり合いながら楽しむ活動を行った。お互いに認め合って、話しかけたり、活動したりして関わっている様子が増えている。 ・友達のよいところを伝える「きらきらタイム」では、友達のよいところを少しずつ自分から紹介する姿が見られるようになってきた。	・「なかよしタイム」の活動が休憩時間の遊びにつながるよう、活動の内容を工夫したり、児童の実態に合った役割分担を考えたりしていく。 ・自分や友達について学習する時間を設定したり、定期的に友達のよさを伝え合う学習を行ったりする。
	〇コミュニケーション力	・親子のやりとりを育む楽しい活動を積極的に提供している。 ・保護者研修会の資料を整理し、系統立てて情報提供ができていく。	・絵本やパネルシアターの話から制作あそびや再現あそびと、同じテーマで遊びを発展できるように取り組んでいる。そこで、親子でのやりとりの内容の広がりが少しずつ見られるようになってきた。 ・絵日記、ことば絵日記、絵カード等の情報提供（おたより、本の紹介）を行った。やりとりに活用し始めた家庭もある。計画的な保護者研修会は実施できていない。	・事前に親子活動のねらいややりとりのポイントを伝え、事後に振り返って話し合う機会を設け、やりとりが活発になるように取り組む。 ・個別に、ことばに関する保護者ミニ研修を月1回実施する。
3 心と体を鍛え、健康増進・体力向上に努める態度の育成	〇健康で安全に生活する力の定着	・体を動かす時間や遊びの中で危険な場所・状況などを理解し、安全な行動をとうとしていく。 ・健康で安全に生活するための知識が身に付いて、生活リズムに気をつけて生活しようとしている。	・コロナ禍のこともあり、しっかりと運動できる環境がとれなかったことで、運動時間の確保が十分ではなかった。また、遊びに夢中になりすぎて周りが見えなかったり、前をよく見がなかなかたりしていることもあり、危機回避意識はまだ十分でない。 ・感染症対策が徹底できていて、子ども達の手洗い・消毒の意識も高くなっている。また、日常生活に密着した保健指導を行うことで、内容を意識した行動が見られる。	・運動の時間などをしっかり確保したり、安全に行動できる環境の設定を行ったりして、体を動かす環境の充実を図る。また、幼児と一緒に安全確認を行うことを徹底する。 ・養護教諭と連携をとって、保健指導の時間を設定したり、規則正しい生活について確認したりする。
	〇健康で安全に生活する力の定着	・自分から進んで体力づくりを行い、続けている。 ・発達段階に応じて、自分の健康状態を伝えたり、健康に生活していくための方法を身につけてたりしている。	・体育や日常生活の指導の時間には、教師と一緒に体力づくりに取り組むことではきているが、時間の設定・確保が十分ではなかった。 ・コロナ感染対策のこともあり、こまめに手洗いをしたり、毎月の保健指導で学習したこと意識しようとしていたりする姿が増えた。	・毎日継続的に体を動かす時間を確保する。（ダンス、マラソン等） ・保健指導の内容や健康に関する状況等を通信や連絡帳で伝え、家庭との連携を図る。
	〇健康で安全に生活する力の定着	・幼児児童が「新しい生活様式」を意識し、自分たちができていることを実践しようとしている。 ・避難訓練等を通して緊急時の対応を確認し、課題を検討している。	・「新しい生活様式」に関して、学校で改善できることを整理し、環境を改善すること等で子ども達が意識できるように働きかけていく。手洗消毒の徹底やマスクの着用、毎日の検温は、学校生活の流れの中に定着している。換気の徹底、給食の際の衛生の使用、人との距離をとる事等、環境の改善や教師からの働きかけによって、「新しい生活様式」が学校生活のスタンダードになってきている。 ・様々な災害等に対する避難訓練等を行っている。関係機関からの意見を参考にすることで、避難場所や対応のあり方について改善を図ることができた。今年度から実施を始めた洪水時の避難訓練についても、想定される被害に対処できるように避難計画を整理することができた。しかし、今年度になって避難訓練が増え、事前、事後指導を含めた時間数が多くなっている。	・長引く感染症対策の中、「新しい生活様式」を実践していく事への意識が薄れないように工夫したり、チェックを怠らないようにしたりしていく。 ・事前、事後指導について指導内容の整理を進めることで、対応について確認し、今後の指導にいかす。また、実施時期や対象者の整理や合理的な避難訓練の実施方法について、年内に検討を進め、次年度への方向性を示す。
4 自立と社会参加をめざしたキャリア教育の推進	〇関係機関との連携	・内容や方法を工夫して、継続して関係機関と連携を図ることができている。特に西部地区の聴覚特別支援学級の担任との連携が深まっている。	・きこえやことばについてのリーフレット等の資料整理が不十分で、それらを活用しにくい状況であった。 ・夏休みに西部地区聴覚特別支援学級担任とひまわり分校小学部・研究部との情報交換会をオンライン実施した。学校生活の情報交換や困り感について意見交換をすることができた。 ・聴覚特別支援学級担任とのやりとりを Google classroom を活用してできるようになった。（聴能だより「みみだより」も classroom で共有）	・きこえやことばに関する資料を職員室の収納ケースに整理し、職員がいつでも取り出しやすいようにする。 ・冬休み中に第2回聴覚特別支援学級担任情報交換会を実施する。 ・聴覚特別支援学級担任へ Google classroom を活用して、月1回程度きこえに関する情報発信をして繋がり深める。
	〇関係機関との連携	・保護者のキャリア教育への意識がより高まって、キャリア・パスポートにも積極的にかわり、保護者との連携が良好である。 ・キャリア段階表をもとに、幼児児童の実態に応じて教師間で共通理解が図られ、キャリア発達を意図した実践が組織的に行われている。	・キャリア教育への理解や意識が高まるよう、キャリア教育だよりで「キャリア教育」についての具体的な考え方や幼児児童へのかわり方を掲載し、学校ホームページにも載せ周知を図ることができた。 ・小学部では懇談時の保護者への説明にあたって研修を行い、キャリア・パスポートの取り組みへの理解を求めたことにより、保護者のコメントにもキャリアの視点を踏まえた児童へのメッセージを記入いただいた。 ・夏季休業中に各学部でキャリアケース検討会を実施し、指導にあたる教師間で共通理解を図り、2学期以降の指導について話し合うことができた。	・引き続き「キャリア教育」についての具体的な考え方や幼児児童へのかわり方を発信していく。また、卒業生やきこえない・きこえにくい人たちの活躍の記事などの掲示を通して、キャリア教育についての意識向上を進めていく。 ・保護者にキャリア教育やキャリア・パスポートについて説明するための教職員研修を引き続き行う。 ・冬季休業中に各学部でキャリアケース検討会を実施し、今年度の評価と3学期の指導について教師間で共通理解を図る。
	〇関係機関との連携	・どの職員も自分の働き方に対する意識が高まり、月40時間以上の教職員が0%になっている。 ・運営面で今までとは違う考え方ややり方を取り込み、試してみることができている。	・施設する時に声をかけ合うことや幼稚園部との施設時間を決めて取り組むことで、業務改善への意識が高まりつつある。時間外業務月40時間以上の教職員は26名中1～2名の状態である。（5、7、8月は0%） ・職員朝会やグループボード等を使って、日頃から情報共有することが定着してきている。企画部会で子どもたちの様子や教職員の様子を含めて情報共有し、課題があるときには改善に向けての意見交換を行っている。	・自分の時間外業務時間の確認や帰りの時間の報告をする等して、働き方の意識改革をするともに、学内や分室内での業務分担について見直し、全体を調整する機会を定期的に設ける。 ・コロナ対応の情報共有や対応や計画変更などを円滑に行い、職員朝会の時やグループボードなど使って日頃から情報共有する。企画部会のメンバーを中心に様々な学習や行事などが業務過多にならないように、積極的に意見を出し合い、新しい方法で進めていく意識を持つ。